



「扇風機の風、気持ちいいな〜♪」

バプテスト心身障害児(者)を守る会

愛の手を

第180号

発行責任者
 社会福祉法人 バプテスト心身
 障害児(者)を守る会
 重症心身障害児施設 久山療
 育園重症児者医療療育センター
 理事長 山田 雄 次
 編集責任者 小 脇 勇
 福岡県粕屋郡久山町大字
 久原 1869
 ☎代 (092)976-2281
 FAX (092)976-2172

「忘れえぬ人々」

— 創立40年を迎えるに当たって —

名誉理事長 川野 直人

久山療育園は来年初立40周年を迎えます。

その創立理念の原点として、「重症心身障害児者を施設に収容して守るのでなく、地域を中心に位置づける為の働きとして我々は重症心身障害児者施設久山療育園を設立する」という言葉で働きは始まったのでした。あれから40年、あのイスラエルが捕らわれのエジプトの地からモーセに率いられ、出エジプトして40年の荒野や砂漠の旅を続けて約束の地カナンを目指したように、今私たちは新たな次の課題に向けて歩み出そうとしています。

40年前、土地もない、金もない、コネも財産もない無い無づくしの中での出発でした。しかし重症児者の生きる社会の冷たさと差別の厳しさに、新しい福祉社会の実現の幻が、私たちの事業への唯一の祈りとエネルギーとなりました。

そういつた中で施設建設の土地探しは、大牟田の小岱山から、八女市近郊の茶畑、更に田川地方の産炭地跡など転々としていました。その頃、久山町猪野の草場博志氏との出会いがあり、草場さんを通して当時の久山町長小

早川新氏との出会いを頂きました。何事にも革新的で先見性の人であった小早川町長と幾度かお会いして久山町に施設を迎えて頂きたいと、町議会に推進中の有志が出席して必要性を訴えました。その結果、現在の用地に全国でも有名になった久山療育園の建設を見たのです。

しかし建設には今から40年前に2億5千万円の資金が必要でした。建設補助に厚生省を通して日本財団から2億円の援助通知を受けて、なお不足する5千万円を銀行から借り入れました。ですが、何分担保がなく、施設が出来ればその建物が担保となるのですが、それまでの保証が必要だったので。その時、叶昌全牧師のご親戚の木本知男氏より、施設落成後に差し替えるとの条件で、担保を提供して頂いたのです。

このお二人のご協力がなければ、今日の久山療育園重症児者医療療育センターの姿もあり得なかつたのです。

創立40周年を前に、心からの感謝の思いを新たにしたいと思います。

主張

支援者との協働による「在宅支援センター」開設への感謝

理事長 山田 雄次

はじめに

久山療育園の創立40周年記念事業としての「在宅支援センター」(「在宅支援棟」と「重症者ホームひさやま」の併設)が支援者の皆さんとの協働によって実現したことを喜び、最初に感謝を表したいと思います。

待望の「在宅支援センター」が完成し、久山療育園重症児者医療療育センター(以下久山療育園)を覚えて頂いている多くの支援者の方々からの祈りを頂く中で7月3日新ホールにいらっしゃる出席者を迎えて喜びの献堂式を迎えることが出来たことは誠に感謝で特別の感慨を覚えました。それはこの度の献堂式において、平素深いかかわりとお支えを頂いている久山町長(久芳菊司氏)とバプテストコロニー友の会長(伊原幹治氏)、更に国立病院機構福岡病院長(岩永知秋氏)から祝辞を頂いた上に出席者の皆様おひとりおひとりからも親しく心からの祝福と励ましのことを頂くことが出来たからです。

重症児者福祉を共に担うつながり

使徒パウロはピリピ人への手紙の冒頭で「わたしはあなたがたを思うたびごとに、わたしの

神に感謝し、あなたがた一同のために祈るとき、いつも喜びをもって祈っている(1章3、4節)とピリピ教会の人たちに対して特別に親しみを込めた挨拶を行っています。それはパウロが困難にあつた時(投獄)ピリピ教会は生まれて間もない教会でしたが、祈りにおいて、また献げものにおいてパウロの福音宣教を積極的に支援し、両者は特別に親しい関係にあつたからです。更に続けて5節で「あなたがたが最初の日から今日に至るまで福音にあずかっていることを感謝している」と語っています。ここで「福音にあずかっている」ということは単に福音の恵みにあずかっているという意味ばかりでなく、パウロと共に福音宣教の働きに参加し、労苦を共にしてくれたいという意味が込められていることばです。私がこの度の献堂式において特別の感慨を覚えたのは、パウロとピリピ教会との間にあつた深いつながりが、久山療育園とその働きを支援して下さっている多くの支援者の方々とのそれと同質のものと認識し、意を強くすることが出来たからです。

久山町から頂いた支援

格取得前)のバプテスト心身障害児(者)を守る会発足のための第1回会議は1967年に開かれました。それから6年間の準備期間を経て、施設の開設を目ざす段階に来て受け入れの地を求めてゆく中で難中していた私たちに對し、施設開設の実現の道を開いて下さったのが久山町(当時の町長は小早川新氏)でした。町議会で施設の開設の受け入れが決議され、1974年久山町町舎本会議場で社会福祉法人バプテスト心身障害児(者)を守る会の設立発起人総会が開かれ、翌年念願の社会福祉法人格の取得が成り、1976年9月「10年越しの夢が叶って」(西日本新聞の取材の見出し)久山療育園が開園したのです。

バプテストコロニー友の会からの支援

「その運動を具体化して推進するために、久山療育園の建設を助け、その運営について物心両面からの支援を行う」ことを目的とした支援組織です。会の特色は久山療育園からの支援の要請を受けて支援活動を行うのではなく、自ら主体的に支援計画を立てて活動し、久山療育園の建設とその運営の強化に寄与している設立母体的な運動体組織だということです。そのような性格の運動体組織として、1970年の発足以来45年間、支援組織の拡充活動、啓蒙活動、ボランティア活動、募金活動その他の諸活動を継続し、特に募金活動においては1億円を越える献金を行い、精神的な面も含めて久山療育園の建設とその運営の支援に大きな貢献をして頂いてきました。事業体としての久山療育園と運動体としてのコロニー友の会が車の両輪のような形で相互に連携・協働して重症児者と共々生きる福祉社会(きょうどうたい)づくりの実現を目指しているのが久山療育園重症児者運動体なのです。

バプテスト教会と市民有志の連携による支援

コロニー友の会を更に深いところで下支えをしているのがバプテスト教会を中心としたキリスト教会と久山療育園重症児者運動に共鳴し、支援の輪に連なつて下さっている市民有志の方々とのつながりにおける岩とも言うべき強固な支援基盤です。福岡地区のバプテスト教会の間で起こった運動が全国の教会及び地域市民の方々の間にも拡がり、支援基盤の拡大と積み重ねが出来たことは誠にうれしい限りと感じています。2008年の旧施設の全面改築工事の時も今回の「在宅支援センター」の開設の折りも高額の建設費を必要とし、国と県とに對し公的資金の補助の申請を行いました。行いましたが、いずれも0円回答で総て自己資金での建築を余儀なくされました。久山療育園開設の最初の建築工事に際しては建築費の4分の3、その増築工事(地域交流ホール)の建築に際しては建築費の2分の1の補助を受けることが出来ましたが今回はそれがなく全額自己資金での建築工となり心配しました。多額の建築資金を要し心配しましたが、建築に際しての募金とバプテスト教会及び市民有志の方々から献げられた38年間に亘る献金の積み立て(将来事業計画積立金)から充当して事業の完成を成すことが出来たのです。

多くの支援者の方々とのつながりは「最初の日から今日の日迄」久山療育園の歩みにおいて深められ、積み重ねられ、久山療育園の将来に向け「希望と力の源泉」となっていることを再認識し、改めて感謝を表すべきであることを考えました。皆さまからのご支援に心からの感謝を申し上げます。

制度・情勢

平成27年度全国重症心身障害施設協議会報告

センター長 宮崎信義

今年の全国重症心身障害児施設協議会は、公益社団法人「日本重症心身障害福祉協会」の主催で、5月15～16日に新潟県で開催されました。参加者は360名・123施設（施設総数127施設）でした。読者の皆様には是非お伝えしたい内容について以下のようにまとめまし

〔重症児福祉協会総会〕（抜粋）

通常の報告と協議が行われましたが、特に代表理事（理事長名）で、厚生労働省への要望書が提出されました。また岡田先生は体調のこともあり、理事長職を辞したいと強く望まれ、後任の理事長には島田療育園長の木実谷哲史先生が選出されました。また来年から会期を協会総会・表彰を含めて2日間に短縮することが決められました。

厚生労働省への要望書の骨子は以下の通りです。要望書「平成27年度障害福祉サービス等報酬改定後の意見と要望」

平成27年度障害福祉サービス等報酬改定において、療養介護事業につきましては、平成26年度障害福祉サービス等経営実態調査結果を主な理由として、報酬の引き下げが行われました。特に、定員81名以上の事

業所においては4・9%の減額となり、かつて経験したことのない極めて厳しい改定となりました。・有効回答率の低さや調査対象に人員配援が3対1以下の事業所が一定数含まれ、公法人立の旧重症心身障害児施設における人員配置と報酬区分の実態が反映されておりません。・療養介護の人員配置について、経営実態調査による直接処遇職員の従事者数に医療制度に必要な人員が含まれている場合は、入所利用者と従事者の比率が1・85対1となり、公法人立の0・98対1とかけ離れた配置となっております。

これらのことから、経営実態調査結果を主な理由として療養介護の報酬を引き下げた平成27年度報酬改定については見直しをお願いいたしたく、当協会として以下のとおり要望いたします。

①療養介護事業の報酬引き下げについて、次期報酬改定を待たずに可及的速やかな見直しをご検討いただきたい。②以上が困難な場合には、次期報酬改定では、旧重症心身障害児施設など医療と福祉が融合している施設における福祉事業の事業活動収支差率の計算方法を抜本的に見直すか、もしくは別の指標（例えば療養介護の人員費率

など）を活用するなど、経営実態調査の方法についてご検討いただき、公法人立の旧重症心身障害児施設の実態が適正に反映されるようご配慮いただきたくお願い申し上げます。

行政説明

今年の行政説明は、「障害児支援について」障害福祉課障害児・発達障害者支援室・障害福祉専門官の田中真衣氏によってなされました。その要旨についてお知らせ致します。

①平成24年度児童福祉法改正による障害児福祉・事業の一元化。放課後等デイサービスの伸び。障害児の相談支援体系（平成24年度以降）指定制度（計画作成担当。一般相談支援事業者に委託可能。）障害支援区分認定↓支給決定↓サービス利用計画策定（平成27年度から義務化）。

②重症心身障害に対する支援について。医療型障害児入所支援。療養介護―240事業所、19,225人（平成25年7月国保連データ、重症児者施設以外も含む）。

③在宅重症心身障害児（者）への支援の経緯。通所事業―平成22年度（1990年度）モデル事業、平成8年度（1996年度）一般事業化。短期入所―平成21年度（2009年度）日帰り型の創設、平成24年度（2012年度）特別重度支援加算。

④報酬改定（平成26年度の各サービスの収支差率の調査を基

盤として）については後述。協議の焦点―シンポジウムから

「施設から在宅への流れの中で重症心身障害施設の現状と今後の展望」というテーマで各ブロック代表が以下のように提言致しました（抜粋）。①北海道・東北地区からは、在宅重症心身障害児（者）の現状と課題として、(1)重症化・高齢化、(2)医療・福祉サービスの不足、(3)行政等との連絡不足が挙げられ、これは他のブロックとの共通課題とも思われました。重症心身障害施設が担う在宅支援の展望として、(1)総合的に支援するセンターとなること（受皿、協議会設置、相談支援体制、医療と福祉の連携）。(2)在宅支援機能の向上（短期入所枠・通所事業枠の拡大、緊急時の受入れ、かかりつけ医となること）。

②関東周辺地区からは、地域が重症心身障害施設に求める役割として、人工呼吸管理を必要とする重症心身障害児（者）のレスパイト短期入所及び中長期入所等の提言。

③東京地区からは、(1)全国の重症心身障害児（者）数―約38,000人、在宅約23,000人（60・5%）、入所約15,000人（39・5%）。超重症児者―10・4%、準超重症児者―13・9%／計24・3%。在宅の超（準超）重症児者が約8,000人であるのに対し、入所の超（準超）重症児者は2,802人（超―1,197人、準超―1,605人）とま

とめられました。(2)施設入所待機者数（2013年度）は全国で約3,700人（16・1%）で、今すぐに入所希望者が38・6%、将来に備えての申込みが28・1%を占めていると報告されました。

④中部地区からは、post NICU（新生児集中治療室退所後）問題を強調され、「入所支援」に限定せず、通所・短期入所を中心とした「在宅支援」に重点を置いた対応が必要であると述べられました。

⑤近畿地区は、特に「小児の在宅支援プログラム」について発題され、NICUの後方支援策として2～3ヶ月間センターに転院して療育・在宅支援に移行するプログラムを培い、NMCs（新生児診療相互援助システム）の後方支援の実際（2011・4～2014・12）を紹介されました。⑥中国・四国地区からは、岡山県における重症心身障害児（者）の現状と施設利用者の在宅医療移行に関する今後の展望が述べられました。

⑦九州・沖縄地区からは、九州内の施設28施設について在宅支援部分の調査結果が発表され、平成26年度の短期入所者数は各施設で多様であることが紹介されました。

追加発言として聖隷おおぞら療育センターの横地健治氏が、「適正な入所規模について」提言されました。大変に興味深いので一部を以下に紹介いたします。①入所の対象地域を限定

する(在宅支援を行っている人担当地域の医療的重症児者等)。
 ②十分な在宅支援機能を持つことが重要である。③常に空床があるように努める(緊急対応)。
 ④人口200万人に対し150床の入所規模で両者(入所・在宅)はつり合う。

委員会報告

①医療問題検討委員会報告

厚労省から平成27年度報酬改定(案)についての説明があり、障害福祉サービス費は減額療養介護サービス費(成人重症心身障害者が対象)は大幅に減額されました。一般的な定員81人以上の2対1の生活支援員配置では4・9%という減額でした。行政は職員処遇改善含むと障害福祉全体では0%と説明しています。この根拠となったのは、平成25年度における収支状況、従事者数、給与等の調査から、一般企業の収益率が+2・3%に対して、障害児・者事業全体の収益率は9・6%と高い伸びを示しているというものでした。しかし、当協会の検討委員会の意見では、重症心身障害者についての事業収支とはかけ離れているというものでした。

この福祉費の大幅な減額に対して協会からの要望は受け入れられていただけませんでした。厚生労働省保険局長及び保険局医療課課長宛ての要望書の要旨は、『平成26年の診療報酬改定において、『超重症児(者)入院診療加算・準超重症児(者)入院診療加算は、一般病棟(障

害者施設等入院基本料、特殊疾患病棟入院料及び特殊疾患入院医療管理料を算定する病棟又は病室を除く)においては、入院した日から起算して90日に限り算定する。当該取扱いについては、平成27年4月より適用する。』とされており、医療型障害児入所施設において小児入院医療管理料4ないし5の算定を行っている場合については、平成27年4月以降も、入院期間が90日を超えても超重症児(者)入院診療加算・準超重症児(者)入院診療加算の継続的な算定が可能とさせていただくよう、要望いたします。』という内容でした。

②福祉問題検討委員会(入所支援部会)報告

前項の委員会に続いて、障害福祉サービス等報酬改定についての具体的な数値を示しました。成人の療養介護サービス費の大幅な減額に対して、18歳未満の医療型障害児入所支援費は日数による費用配分が示され入院180日目までは増額されますが、大多数の181日目以上では1人1日83単位(830円)の減額となりました。

③福祉問題検討委員会(在宅支援部会)報告

92施設からの回答(123施設中)による在宅支援状況調査結果が報告されました。主な内容は、短期入所実施設で、超重症児者646名(57施設)、また、人工呼吸器装着542名(55施設)。新生児集

中治療室(NICU)からの入所(69/72施設から回答)について数字は平成26年度の人(数)は、NICUから直接7名、NICUから中間施設を経て14名、NICUから在宅を経て19名でした。一般病棟からの入所は、一般病棟から直接38名、一般病棟から中間施設を経て10名、一般病棟から在宅を経て17名でした。

グループホーム(旧ケアホームを含む)設置状況(92施設中)は、5施設が設置し、利用者は103名ということでした。当センターも今年7月に入居定員10名の「重症者ホームひさま」を開設致しました。

④人材育成・研修委員会報告

協会が主催する研修会の再編について報告されました。研修会は、職種ごとの研修会(看護師、栄養士・調理師、保育士・指導員等療育職員、医療技術管理)とし、看護管理や施設管理については「研究会」として取り扱うということでした。

⑤重症心身障害看護専門研修について

発端は平成21年4月に協会に看護専門研修委員会が設置され、5月に東京都ブロックにおいて研修が開始されたことでした。以来、平成27年4月の第4回認定審査会では80名が認定され、累計で248名の重症心身障害認定看護師が育成されたことになりました。

⑥広報委員会

呼称の改正について、守る

会からの要望により「重心」を「重症児者」と改めることとなりました。ホームページの検索も同様に「重症児者」です。

⑦ガイドライン特別委員会報告

「重症心身障害療育マニュアル」が改訂されました。2015年3月20日に新版「重症心身障害療育マニュアル」が発刊され、「通所マニュアル」の部分も統合しました。

重症児者実態調査

超重症児(者)・準超重症児(者)実態調査(2013年度・平成25年度実態)がなされる予定でしたが、数施設から回答がなく報告は後日となりました。尚、重症心身障害児(者)実態調査が改訂されることとなり、その要点は①入所部門の削除項目として体重別、ADL別、外泊状況、教育実施状況ほか、②入所部門の追加項目…医療的ケア(人工呼吸、気管切開、経管栄養・胃瘻・腸瘻)、骨折、感染症、死亡原因、大島分類別、横地分類別、障害支援区分、入所経路等です。

以上、重症心身障害児(者)やご家族、実施施設にとつて重要な情報収集や境涯が行われる今年度の全国重症心身障害施設協議会について御報告申し上げます。来年度は2016年(平成28年)5月19(木)〜20(金)に大阪市で開催されます。

職員の異動

(5/1/7/31)

【退職】

- ▽本田 朋子(食事介助員)5/31付
- ▽石田 和美(看護師)6/30付
- ▽小牟田真帆(療育員)7/3付
- ▽多比良佳奈子(介護福祉士)7/17付

【採用】

- ▽印 美帆(看護師)5/1付
- ▽安部 節子(事務員)5/1付
- ▽柘谷 麻美(看護師)7/1付
- ▽野中 峯子(療育員)7/1付
- ▽貝原 成(療育員)7/6付



寄り添う医療
 共に働く小児科医を
 募集しています。

【連絡先】

久山療育園重症児者医療療育センター (092)-976-2281

社会福祉法人社会福祉法人 バプテスト心身障害児(者)を守る会
重症心身障害施設 久山療育園重症児者医療療育センター

2014年度決算

(単位：円)

2015年5月25日 理事会・評議員会 承認

2014年度決算概要

科目	予算	決算	増減
<<事業活動による収支>>			
(収入の部)			
児童福祉事業収入	3,099,000	3,099,581	581
障害福祉サービス等事業収入	427,970,000	431,770,016	3,800,016
医療事業収入	735,784,000	743,497,724	7,713,724
経常経費寄附金収入	11,000,000	10,218,808	△ 781,192
受取利息配当金収入	2,595,000	3,248,197	653,197
その他の収入	6,031,000	6,640,292	609,292
事業活動収入計(1)	1,186,479,000	1,198,474,618	11,995,618
(支出の部)			
人件費支出	826,011,000	827,932,355	1,921,355
事業費支出	121,564,000	121,124,826	△ 439,174
事務費支出	72,579,000	71,526,347	△ 1,052,653
事業活動支出計(2)	1,020,154,000	1,020,583,528	429,528
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	166,325,000	177,891,090	11,566,090
<<施設整備等による収支>>			
(収入の部)			
施設整備等補助金収入	6,149,000	450,000	△ 5,699,000
施設整備等寄附金収入	10,000,000	14,307,750	4,307,750
固定資産売却収入	0	500,000	500,000
施設整備等収入計(4)	16,149,000	15,257,750	△ 891,250
(支出の部)			
固定資産取得支出	335,463,000	327,714,858	△ 7,748,142
施設整備等支出計(5)	335,463,000	327,714,858	△ 7,748,142
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 319,314,000	△ 312,457,108	6,856,892
<<その他の活動による収支>>			
(収入の部)			
積立資産取崩収入	312,270,000	310,845,360	1,424,640
その他の活動収入計(7)	312,270,000	310,845,360	1,424,640
(支出の部)			
積立資産支出	159,281,000	171,200,256	11,919,256
その他の活動支出計(8)	159,281,000	171,200,256	11,919,256
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	152,989,000	139,645,104	△ 13,343,896
予備費支出(10)	0	0	0
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9) -(10)	0	5,079,086	5,079,086
前期末支払資金残高(12)	294,810,714	294,810,714	0
当期末支払資金残高(11)+(12)	294,810,714	299,889,800	5,079,086

I.全体として

- 収入において予算を上回り、支出においてはほぼ予算通りに執行し、予算対比約12,000千円増の171,200千円を積立金へ繰入れた。
- 診療報酬改訂(-1.26%)及び消費税増税対応(+1.36%)・障害者等入院基本料の単価増、診療内容実績増により入所外来収入共に予算を上回った。福祉面での収入も総額で予算を上回った。
- 「在宅支援プロジェクト計画」に基づき、将来計画積立預金より業者支払いを行い、建設仮勘定として法人本部へ計上した。
- 日本財団より軽車両1台、24時間テレビチャリティー委員会よりリフト車両1台に対し、計4,300千円の補助を頂き、資産計上した。
- 「在宅支援センター」建設の為に寄附金を募り、予算額10,000千円に対し、約14,300千円の寄附を頂いた。2015年度までの目標総額30,000千円の内の2年目となる。

II.収入について(予算対比)

- 医療事業収入(入院・外来・歯科診療)について全体では、予算対比約7,700千円増。主な要因は入所・外来日数・診療内容実績増(入所における障害者等入院基本料単価増含む)による。
- 障害福祉サービス事業等収入について(医療外)全体では、予算対比約3,800千円増。主な要因は、入所・相談支援事業における実績増による。但し、短期入所(約1,000千円減)。通所収入(約1,400千円減)については実績減により予算額に達しなかった。

III.支出について(予算対比)

- 人件費については全体で約2,000千円増。予算計上時、賞与引当金計上に伴う法定福利費未計上、及び非常勤・派遣実績増の為に、総額約2,000千円増。
- 事業費について、全体では予算対比約1,000千円減。給食費支出減、診療材料費支出及び消耗器具備品費増。
- 事務費について全体では、予算対比約1,000千円減。研修研究費他。
- 「在宅支援センター」建設関係では、総額310,845千円支払い済み。那の津壽建築研究所7,420千円、松尾建設303,000千円、日本ERI425千円支払い済み。
- 器具・備品(1品目100千円以上)総額17,000千円。主たるものは、福祉システムソフト約7,128千円、薬剤分包機約2700千円他。

IV.積立金

将来計画積立金150,284千円、減価償却積立金20,876千円、奨学積立金39千円、人事積立金1千円。合計171,200千円を計上した。尚、積立金の中には寄附金収入24,526千円を含む。

ご協力ありがとうございました
(2015年4月1日〜6月30日) 敬称略

【法人会計】

一般献金

久山町助成金、福岡県立福岡特別支援学校訪問教育、(宗)宮古バプテスト教会、鳴友学園女子中・高等学校奉仕委員会、児玉敬章、豊前キリスト教会、又野貴志、馬場崎一雄、恵泉バプテスト教会女性会、くずめよし、上久原区長平畑絃兵衛、(学)西南学院中学校母の会、栗田昌直、田中登美子、安藤榮雄、榎谷悦子、山崎眞澄、主の十字架クリスチャンセンターの冠福岡教会、山口正夫、大牟田バプテスト教会、西南学院大学短期大学部付属シオン山幼稚園保護者会、西南学院大学ハンドベルクワイア、手作り品売上

【施設会計】

一般献金

池田愛子、林秋吉、仙川キリスト教会、宮内千鶴子、因敷、羽田有子、久山町下久原行政区、中久原区、東久原区、福岡県立福岡特別支援学校、大村達美 (659,000円)

献品

梅崎季美子(食器用洗剤)、ガールスカウト福岡県連盟(タオル)、高瀬孝介(レターケース)、森田行雄(靴下)、田中由美(葉書)、新藤佐知子(葉書)、草場貴子(葉書)、久保山信・剛(葉書)、高瀬寛(衣類)、入山秀美(葉書)、浦恵一(タオル)、大場奈緒子(ジュース)、山口英明(葉書)、福田さとみ(葉書)、馬原哲治(プリンターインク)、大坪夏江(葉書、タオル)、田上律子(葉書)、鮫バプテスト教会女性会(タオル)、(株)サンエイワーク(カラ

指定献金

建築指定献金

該当無し

山田雄次、井手伸昌、高橋香代子、川野直人、窄口正一、井上清美、自動販売機売上献金、高野瀬竜彦、バプテストコロニー友の会、柴田冬樹、伊藤智子、嘉久明子、牟田逸雄、古川新、吉村敏彦、林俊明、山崎眞澄、

クリ時計)、高瀬寛(米、衣装ケース)、鮫島隆之(葉書)、山崎和樹(葉書)、古賀豊(葉書)、山口正夫(葉書)、村上嘉彦(梅の実)、宗廣美代子(靴下)、福岡医療関連協業組合(時計)、大井バプテスト教会(食器用エプロン)、シオン幼稚園(タオル、石鹸)、大富キリスト教会一粒の会(食器用エプロン)、高瀬孝介(整理タンス)、田村玲子(バザー品)、宮崎信義(葉書)、嘉久明子(保存用ビスケット)

(15,120円)

【バプテストコロニー友の会】
4月分街頭募金

(11,237円)

【バプテストコロニー友の会扱
い献金】

篠栗キリスト教会、恵キリスト教会、吉田圭子、椿原喜代子、池節子

(71,701円)



メモ帳

【4月】
▽1日 新入職員オリエンテーション(21名) 4/2
▽2日 通所始園式(利用者23名、39家族) 3日 児童養護施設福岡学園ボランティア来園(園生5名、職員4名) 6日 イースター行事 福岡特別支援学校入学式(中学部1名、高等部4名) 9日 福岡特別支援学校 始業式 15日 博多高校実習事前オリエンテーション(70名) 19日 保護者会総会・久山療育園との懇談会

【5月】
▽12日 福岡県重症心身障害児を守る会療育キャンプ事前研修会(21名) 13日 博多高校看護専攻科実習 6/26 15日 西南学院大学社会福祉学科実習(18名) 18日 福岡医療短期大学保健福祉学科(介護福祉士)実習 6/16 22日 九州各県の障害者福祉課主管課長による重心施設見学(13名) 23日 運動会 25日 精華女子短期大学実習 6/3 26日 筑

【6月】
▽2日 福岡県職員研修(3名) 3日 粕屋保健福祉事務所主催 福岡大学医学部実習(7名) 10日 粕屋保健福祉事務所主催 福岡大学医学部実習(5名) 11日 しながくどう福岡東より通所見学(5名)、久山町障害者親の会「つくしんぼ」見学 12日 福岡県重症心身障害児を守る会 療育キャンプ事前研修会(21名) 14日 篠栗キリスト教会より花の日来訪 16日 福岡市中央区民生委員・児童委員見学(37名) 19日 シオン幼稚園母の会見学 22日 福岡特別支援学校高等部3年生 通所実習(1名)、ふれあい看護体験(高校生6名) 24日 通所夏祭り(27名) 27日 精華女子短期大学音楽療法見学(22名) 28日 中久原祇園祭万度参り 29日 和白リハビリテーション学院作業療法士1年生 見学

紫野南校区 民生児童委員見学(15名) 30日 西南学院中学・高等部宗教部ボランティア(34名)

支援者からの声 第十三回

「福祉」に関わって

社会福祉法人

名古屋キリスト教社会館顧問

名古屋教会協力牧師

池田 魏義



名古屋の市街から東方に車で小一時間のところにある「愛知牧場」の近くに、愛知国際病院に隣接して「アジア保健研究所」(AHI)の施設が建っています。ここはアジア各地(カンボジア、インド、インドネシア、フィリピン等)の山間地域で働く保健ワーカーの育成が急務であることを覚えた川原啓美医師(外科)によって1980年に創設され、今年で35周年を迎えます。この間、来日して

研修を終えた人は950名。現地等、海外研修を含めると6500名を数えます。

去る5月26日、川原医師の葬儀が牧場と地続きの丘の上に建つ南山教会(教団)で執り行われました。その折、御遺族から参列者に配られた故人の著書「分ち合いの人生」(ライフ企画)を改めて手に致しました。これは主にAHIや病院での勉強会で語られたのですが、著者の生い立ちから、AHI創設に至るまでの経緯が詳しく記されています。

6月25、26日(土)、日本キリスト教社会福祉学会第55回大会が名古屋で開催されました(会場金城学院大学、教団・名古屋中央教会)。今回のテーマは、「キリスト教会福祉社の使命」目の前のいのちに向かい合う」でした。「大会テーマよせて」の一文を求められ、最初に浮かんだのは川原啓美医師のことでした。AHIを立ち上げられた頃からのお交わりで、以前、教会にもお招きしてお話

を伺ったことがあります。川原医師が日本キリスト者医科連盟から派遣されてネパールの病院で外科医師として働いていた時のこと、治療を受けにきた一人の女性との出会いは、自分の生き方が変えられるような経験だったと記しておられます。彼女の脚は皮膚がんで早急に切断を要するものでした。しかし彼女はその手術を断りました。理由は切断して命は助かって働けることができなくなり、夫や子どもの負担が増える。脚があれば命ある限り家族のためにできることがあるというもの

でした。「聖書の中に、『主は、わたしたちのためにいのちを捨てて下さった。それによつて、わたしたちは愛ということを知った。それゆえに、わたしたちもまた、兄弟のためにいのちを捨てるべきである。』(Iヨハネ3章16節)とあるけれど、今まで象徴的な話として受け止めていた『兄弟のためにいのちを捨てる』ということが、そのままのこととして自分に分かつた」と書いておられます。聖書のこの箇所は、誰にとつても分かりにくいものですが、「兄弟のためにいのちを捨てる」と訳された「捨てる」の原語(テイセミー)には、置く、差し出すという意味もあります。自分を、自分のためにだけにでなく、他者のために自分を置く、差し出して生きる生き方を人生の基本に据えることと理解しています。

わたしが関わってきた名古屋キリスト教社会館は、伊勢湾台風(1959年9月26日未明名古屋南部を中心に中部圏を直撃)の救援活動を継続するかたちで、現在地に創設されました。

今こそテレビ、スマホ等の普及で災害の状況をリアルタイムで知ることができますが、当時はそのような状況ではありませんでした。災害時のボランティア活動が一般化したのは、阪神淡路大震災(1995年)以降と言われています。台風直後の救援活動が迅速且つ広範囲に広がったのは、

既に組織されていた各教派、YMCA、YWCA、学校等関係諸団体の代表で構成される「名古屋キリスト教協議会」の横の連携が大きかったと言えます。名古屋キリスト教社会館は最初は4人の職員で乳・幼児の保育と託児が中心でした。今年で55年になりますが、その活動は大きく拡がり、現在は28事業(発達センター部14、支援センター部6、コミュニティケアセンター部8)職員数400名(含非常勤)で、事業所は市内5区(全16区内)にわたっています。直接、福祉の現場にいるわけではありませんが、職員の方達の何気ない言葉や行動から、人に対する優しさや根拠を感じていました。そして今、久山療育園で直接、間接に関わってこられた、また関わっておられるお一人おひとりのお働きを思います。

戦後70年、戦争を体験として語ることのできる世代の一人として、平和や人権がどれ程基本的に大切なことか、「福祉」に関わって、改めて深く考えさせられています。

バプテスト「コロー友の会」かべしんぶん

「すべての重症児者に愛の手を」

バプテスト「コロー友の会」会長 伊原 幹 治



去る7月3日に久山療育園で在宅支援棟及び「重症者ホームひさやま」の完成を神様に感謝する献堂式が行われました。この事業は、在宅重症児者家庭に対する支援の働きで、長い間地域の在宅家庭からその実現が待たれていたものであります。

久山療育園は90数名の入所者に対する療育事業に加えて、短期入所、通所事業などを通して、地域の在宅家庭が抱えている様々の困難に真摯に向き合い、その要望に応えて来ました。上記の働きは、更に大きな一歩を踏み込むものとなります。皆様のご支援をよろしくお願い致します。

以下は、その時の私の祝辞です。

祝 辞

本日は、昨年の6月より工事が行われて来た「在宅支援センター」の完成、誠におめでとうございます。

これは久山療育園がすすめてこられた「在宅支援プロジェクト」の大きな成果であり、地域と共に歩む園の姿勢を改めて示すものであります。具体的には、

在宅支援棟の働きに併せて、グループホーム「重症者ホームひさやま」の働きがはじまります。これらの事業は地域におられる在宅の重症心身障害児者とそのご家庭にとって、大変大きな支えになるものであると期待しています。

久山療育園が運営面において大きなリスクを抱えるにもかかわらず、敢えてこの事業に取り組もうとしたのには大きな理由があります。それは重症児者の2/3が在宅の状態であり、ここでは介護する両親の高齢化に加えて、子どもの障害の重症化という問題が顕著になっていることがあります。これらは個々の在宅家庭だけで解決できる問題ではなく、在宅介護という仕組みに対して、何らかの形で第三者が関与しなければ解決できない事を示しています。しかし

現在、このような状況に対して、行政からは何ら有効な対応策が打ち出されていないのが実情であり、在宅家庭は大きな困難の中にあります。

久山療育園は創立以来、重症心身障害児者の生命を守る働きを通して、近年特に、通所事

業をはじめとして地域の方々に対する支援を積極的に行ってききました。その中で、保護者の皆様から寄せられた声に耳を傾け、この問題は避けて通る事が出来ないという判断したものであると推察致します。

そこで、これらの事業が、軌道に乗るためには園での様々な努力、工夫の積み重ねが必要であります。それと共に、行政からの強い支援が待たれるところです。

私たち「友の会」も会員活動や年間20回近く行っている街頭募金、チャリティ・コンサート、あるいはジャガイモとカボチャの販売などを通して、これからも積極的に支援を行って行く所存です。

久山療育園のささやかな試みが成功し、重症児者福祉の世界に開いた小さな穴が、地域の在宅の皆様にとって希望となることを願ってやみません。

来年に創立40周年を迎える久山療育園の新たな出発に際してひとことの祝辞とさせていただきます。本日は誠におめでとうございます。

重症者ホームひさやま開所にあたり

施設長 渡辺 浩行

多くの人達の尽力により在宅支援活動の核となる重症者ホームひさやまが、隣接する在宅支援棟と共に、7月1日開所いたしました。

医療支援の確立

ほとんどの利用者が、基礎疾患を持ち、投薬などを受けていますが、医療型入居施設と異なり、日常のケアは医師や看護師ではなく介護職員によつて行われます。利用者の健康を維持し、また介護する職員にも過大なストレスとならないよう、開所後の十分な検証、検討が必要です。

医療型入所施設が隣接するという地の利を生かし、内服の定期薬管理、外来での定期健康診断（採血・レントゲン）、受診／往診など、積極的な医療的サポートを行っています。

「重症児者と共に」 「重症児者を社会の中心に」という久山療育園の理念を実現するためには、在宅支援事業の拡大や重症者ホーム（福祉施設）という共同生活援助事業の確立が必要であると考

え、今回のホーム開設に至りました。家族や社会とのつながり、個性ある利用者の人生が実現できる場所を作っていく事が私達の願いです。

ホームの1日

昼間は久山療育園通所を利用し、夕方や夕食後は、ホールでビデオを見たり、個室でテレビや好きな音楽を楽しんだりしています。生活の場とし

てより充実したものとなるように、いろいろな企画や外出なども検討中です。

食事（朝・夕）は外部委託ですが、味や見た目など、「楽しめる」食事が目標です。

これからのホーム

人が人らしく生きるためには、いかに人と関わっていかれるかという事が一番大切です。ホームでは、現在は10名のスタッフで対応していますが、より細やかな対応や一人ひとりに向き合った生活支援のためにはもっと多くの人が必要です。

重症者ホームの収入は限られており、適切な人員配置や他の社会資源の利用など考えていかないといけません。ボランティアの方のご支援など、皆様のご理解やご協力が、今後のホームの維持・発展に不可欠です。

そして、利用者みんなが、皆様との交流を楽しみにしています。ぜひ私たちに会いに来てください。



藤田 英彦

「この獣にはまた、大言と冒涇の言葉を吐く口が与えられ、四十二か月の間、活動する権威が与えられた。」ヨハネの黙示録13章5節

案じられている温暖化のためでしょうか、この夏は梅雨明けも遅く、酷暑の日が続きました。残暑も厳しいことでしょう。

「戦後レジウムからの改変」を唱える安倍自民党政権によつて「壊憲」作業が進められ、多くの憲法学者をはじめとする民衆の「戦争法案」である安保関連諸条約に関して国会での強引さが目立ち、大衆の夢を食ひ物に、オリンピック関連の利権争い、8月11日には、3・11の多くの被災の

いのちをないがしろにした川内原発再開。何れも数の優勢を背景権力と富を追求する驕りきつた態度です。

私達は聖書が伝える言葉に耳を傾けたいと思います。黙示録は、聖書の中でも最も分かり難く読み難いものだと思います。

宗教改革者のルターも1522年の聖書の序文には「これは使徒的でも、預言者的でもない」と言い切っています。1545年になつて「この書が『われらの慰め』と教会に対する諸々の反逆に対する『警告』のために与えられている」と述べ「キリストが常にその聖徒達と共にいます、最後の勝利を勝ち取って下さる」と言い換えています。

まず黙示録の数字の暗号を解読すると、全体の理解が出来ます。1は神、2は証人、3は神の支配する天、4は被造物である地、7は完全、0は世、12は

民族、これを足したり、架けたり、割ったりして意味づけます。小羊は聖徒、獣や龍は権力や武力をもつた獐猛な国家（ローマ帝国など）です。42か月は3年半、不完全です。

今日、数の優勢を頼みとして「世界の警察」を唱え「パックス・アメリカーナ」と称される大国アメリカに追従するために「戦争法案」を強行し、原発を再開するなど人間の尊いのちをないがしろにして、戦後の平和と人権と国民主権の日本の憲法を変え、力と富を誇る戦争の出来る国へとしようとする安倍政権の政治は、十戒の「殺すな」の戒めや「平和を実現する人々は、幸いである」（マタイ5章9節）に反します。黙示録に言う、力と富による獐猛な権力支配はやがて滅びます。「舌」をはつきりと叫び続けてゆきましょう（フィリピ1章27〜30節）。

3・11の多くの被災の

いのちをないがしろにした川内原発再開。何れも数の優勢を背景権力と富を追求する驕りきつた態度です。

私達は聖書が伝える言葉に耳を傾けたいと思います。黙示録は、聖書の中でも最も分かり難く読み難いものだと思います。

新入所者さん 紹介

グループホーム開設に伴い、個性豊かな十名の利用者さんをお迎えしました(グループホーム4名めぐみ・ひかり棟各3名)愛称や好きな食べ物等、それぞれのお母さんにお伺いしていただきましたので、ご紹介いたします。

- ①家庭での呼称(愛称)
- ②好きな食べ物
- ③嫌いな食べ物
- ④好きな人・物・事
- ⑤嫌いな人・物・事
- ⑥これだけは外せない・お願いしたいこと(こだわり?)
- ⑦スタッフからひとこと

グループホーム とつてもダンディ

井手 伸昌さん



- ①のおぶさん のぶりん
- ②お肉 コーヒー
- ③もつ料理(私が苦手です母)
- ④プリンちゃん ピカチュー
- ⑤顔に水がかかるのは耐えられませんが(プールは大好き)
- ⑥パソコンを極めたい コーヒーのストローは細目に限る
- ⑦博学の伸昌さんに、いろいろな教えていただき勉強になっています



キュートなイケメン 山元 久生さん

山元 久生さん



- ①ちゃーちゃん
- ②白いご飯にちりめんじゃこ(たまりません)
- ③特になし
- ④ソフトバンクホークス(本田選手のファンです☆) テレビ
- ⑤風船 大きな声(応援はOK)
- ⑥ミッキーとハリーホークのマスコットは外せません テレビのリモコンも捨てがたい...
- ⑦女性スタッフにモテモテの久生さん、みんなメロメロ、癒されています



甘え上手なナイスガイ 宗廣 清彦さん

宗廣 清彦さん



- ①きよくん
- ②コーヒー
- ③アルコール?(意外とイケる口かも)
- ④ミッキーマウス 若い女性眼鏡の男性 カード類
- ⑤工作や共同作業
- ⑥カードやパンフレットを収集しているので、協力よろしく
- ⑦笑顔いっぱい、楽しく過ごしましょう

硬派を極めた男

縄田 亮一さん



- ①りよんりよん

おおかあさん特製かぼちゃの煮物

- ②特になし
- ③おとうさん 男性 車の中(停車中の車の中は、時を忘れるくらい好き☆)
- ④女性の甲高い声には引いてしまいます
- ⑤甘えん坊なので、ひとりにないでネ
- ⑥亮一さんらしく楽しく元気に過ごしましょう

ひかり棟

きらきら笑顔はピカいち

牛房久美子さん



- ①くみ
- ②いちこのケーキ
- ③特にないけど、酸っぱい物は少し苦手
- ④スマップと嵐の間で揺れている私・・・TV(人生の楽園めんたいワイド)
- ⑤後ろから急に声をかけられること

- ⑥ 皆と仲良く、元気で楽しい毎日をおくってほしい(母)
- ⑦ ピカピカ笑顔にもうメロメロです 食前のハイタッチでストレッチするよ☆

笑い声が超チャーミング

吉見多恵子さん



- ① たえちゃん たえこ
- ② おかあさんのオムライス
- ③ 骨のあるお魚(のどに刺さると痛い)
- ④ おとうさん おんぶ ハグ
- 紙ちぎり(これは得意中の得意☆)
- ⑤ 大きな声や音
- ⑥ イライラした時は、静かな場所ですとハグしてネ(不安でいっぱいの時)
- ⑦ 大好きな多恵子さん、毎日いっぱい、いっぱいハグしようね☆

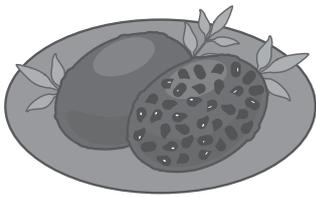


ちよこつとニヒルな

宮内 巨さん



- ① わたる わーたん
- ② 甘い物(ぼた餅サイコー)
- ③ 特になし
- ④ 荒っぽい遊び ハラハラしたい
- ⑤ 一人ぼっち 淋しいのは嫌いだよ ご飯の待ち時間も嫌(早く食べたいです)
- ⑥ “かまってほしい病”なので、出来るだけかまって下さい ヨロシク☆
- ⑦ お散歩たくさんして、色んな人に会いに行こうね☆



めくみ棟

さわやかなイケメン

高木 健太さん



- ① けんた
- ② からあげ
- ③ チョコレート・ヨーグルト
- ④ おじいちゃん
- ⑤ 顔に水がかかること
- ⑥ 暑がりなので、アイスノンを入れてね
- ⑦ とっても素敵な笑顔でいつも癒してくれてありがとうございます☆



キュートな声の持ち主

安永 なおみさん



- ① なおみちゃん
- ② 牛乳・豆乳
- ③ 甘いケーキ
- ④ おかあさん 本をパラパラとめくる
- ⑤ 特になし
- ⑥ まだ人見知りしてしまうので いっぱい声を掛けて下さい。
- ⑦ これから、たくさん笑顔が見たいです☆一緒に楽しい日々を過ごしましょう

魅惑のポニーテール

南谷 理恵さん



- ① りえちゃん
- ② マヨネーズ・ばなな

- ③ オレンジ(酸っぱいもの)
- ④ おかあさん 音 激しい揺れ
- ⑤ ひとりぼっちはつまらないから嫌
- ⑥ 声を掛けられたり抱っこされたりすると、とっても嬉しいな☆
- ⑦ これから、もつとりえさんのこと知っていききたいので、教えてください☆

10名の皆さんようこそ久山へ。家庭とは全く違う環境に戸惑い、心の中には不安や淋しさでいっぱいだと思います(ご家族の心中あわせてお察しいたします)。そんな中でもいつも笑顔で応えて下さり、スタッフ一同、心から感謝しています。ご家族の大切な宝物である皆さんにしっかりと寄り添い、共に泣いたり笑ったりしながら、健康で豊かな時を重ねていけたらと願っています。精一杯お世話させていただきますので、これからずーっとずーっと、よろしくお願ひします。(ひかり棟介護福祉士 金子)

ひかり棟

“ ゆういち&あやめ ” ライブin久山

去る7月13日、話題沸騰中のアーティスト“ ゆういち&あやめ ”さんが、前回の大好評を受け、再び来園して下さいました。

イエス様が、私たちを愛し、守り、共にいて下さることを歌ったオリジナルソングから、楽しいドラえもん歌まで、清らかで澄みきった歌声に心洗われ、ノリノリの演奏にパワー充電されました。本当に楽しいひとときを心から感謝しています。ありがとうございました。

ここで利用者さんの声をひとつふたつ・・・



「いい雰囲気☆」

利用者さんの声その一

「実は、前回からゆういちさんのことが気になっていて、ついついチラ見していたのですが、僕たち似てますよね☆スリーショットいただきました！感激です。あやめさん、きれい♡」(T・H)



「あ！あやめさん!!」

利用者さんの声その二

「僕のラップ、結構評判なんです。リコーダー・タンバリンもいけますので、次回のコンサートの時は、是非声をかけて下さい。盛り上がることをお願いします。」

(ひかり棟介護福祉士 金子)



「ぱんぱかばあ～ん」

“ ミスひさやま? ”

7月1日、お誕生日の翌日に、外出サービスを利用してお出かけしました。お食事やお買い物を楽しんだ後、とあるスタジオで、メイクをしてドレスアップした写真を撮りました。(自分への御褒美です☆)

うっとりするくらいステキでしょう？

私に会いに来たい方、いつでも歓迎します☆ウフフ♪

木曜ボランティアさんのアイドル (Y・S)

*7月からはグループホームで生活されています (ひかり棟介護福祉士 金子)



「オホホ」

“ まったり、イイ感じ ”

おとうさんは、忙しい中毎日会いに来てくれて、ボクの健康を気遣い、時々ヘアカットもしてくれます。おとうさんはトップスタイリストなんだよ☆今日は、スマホで動画を見せてくれました。(何を見ているかはヒミツ) ボクそっくりでハンサム、大好きな自慢のおとうさんです。身体を大切に、これからもずっと元気でいて下さい☆

(ひかり棟介護福祉士 金子)



「仲良し親子」

めぐみ棟

運動会

5月23日に待ちに待った久山療育園の運動会が行われました。今年は天気が心配でしたが、皆さんの願いが通じて天候に恵まれました。多数の競技があり、どの種目も大いに盛り上がり、競技に参加された方や応援を頑張っていた方、どなたもとても良い表情をされていました。今年も恒例の新人紹介と風船飛ばしがありました。新人紹介では、新人職員の方々が恥ずかしそうにパフォーマンスをしてくれて、皆さんを笑わせてくれました。風船飛ばしでは、皆さんの思いのせた色とりどりの風船が上空へ飛ばす様子がとてもきれいで、参加された皆さんがいつまでも見ていました。私自身もこの瞬間が感動で忘れられません。さて今回の運動会では、呼吸器を使用している村津さんと武田さんが初めて皆さんと一緒に競技に参加することができました。お二人は今まで競技に参加出来ない分、お友達への応援を一生懸命頑張っていました。村津さんは応援中も皆の輪の中に入りたくてドキドキしたり、手を力いっぱい動かしていました。武田さんは緊張もなく落ち着いた表情で待機していました。でも、いざ参加となると武田さんや村津さんやお父さんもやや緊張していましたが、競技中はとても楽しそうでした。来年も競技に参加したいなあと、

二人の表情から強く感じました。

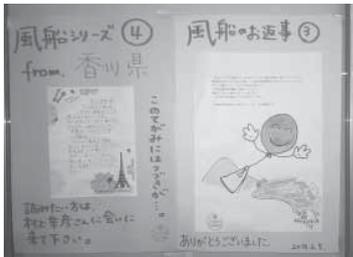
(めぐみ棟看護師 今磯)



風船のお手紙紹介

今年もみなさんが送った風船手紙に、暖かいお返事の手紙が届きました。遠い香川県の方よりめぐみ棟の村上さん宛てに手紙を頂きました。ぜひお部屋に読みに来て下さいね☆

(めぐみ棟看護師 國崎)



外来療育

宇宙

猪野川へ

Let's Go!

長い梅雨が終わると、ジリジリと暑い夏が近づいてきました。毎週水曜・木曜日の2回、元気いっぱい・笑顔いっぱい宇宙の子どもたちが通園して来ます。

水遊びの季節になったら「川遊び」に行こうと計画を立て、ついにその日(7月15日)がやってきました。朝から青空が広がり「いつでもいらっしやうい」と言わんばかりの天候。さっそく近くの久山町猪野川にある猪野川へ出かけました。猪野川は人気スポットでもあり、すでに遊びに来ている幼稚園・保育園児で賑わっていました。

宇宙の子どもたちも初めての川遊びとあり、ちよっぴり緊張した様子…。冷たい水を足にかけられるたびに「ピクッ」と足を引っ込めたり「ニヤ〜」と笑いだしたり…。時間をかけてゆっくり水に慣れていきました。水に慣れてくると他への興味も見え始め、小石をつかんだり周りの声を聞いて微笑んだり楽しさが伝わりました。川遊びのラストはビニールプールを川に浮かべ、その中に子どもたちが仲

良く「ゴローン」と横になって川上の方から川の流れと共に「どんぶらこ、どんぶらこ」とビニールプールの船に乗って緩やかに下ってきました。水の優しい揺れに宇宙の子どもたちも、とてもリラックスした様子でした。この遊びを見ていた周りの子どもたちは「いいなあ〜」と言うように集まり、注目を浴びた宇宙の子どもたちでした。

少しの間ではありましたが、今回は猪野川まで足を運ぶことが出来ました。また機会を見つければ、色々なところに遊びに出掛けたいと思います。「猪野川に行けたことに感謝・感謝」の一日でした。みなさまありがとうございます。

(通所保育士 汐田)



通所で頑張っています！

園田 耕大さん

園田耕大、18才。今年、南福岡特別支援学校を卒業し、4月から通所でお世話になっていきます。見た目よりも背が高いといわれる細マッチョな男の子です。そして今はやりの(?)スイーツ男子でもあります。いつも眠そうな目をしていますが、甘いものを食べると目をパチッと開けたり、口をニカッと開いて嬉しそうな笑顔を見せてくれます。少し前まではAKBの歌を聴くのが大好きでした。通所では散歩に行ったり、音楽や手遊びを楽しんだり、毎回お楽しみがいっぱいです。うんどう会や夏祭りなどのイベントも充実していて、親子で楽しませてもらっています。

久山療育園との出会いは小学部3年生の時。訓練に通り始めたのがきっかけでした。あっという間に11年目になります。当初はまだまだ泣き虫で、音楽をかけた時、おもちゃを鳴らしながら訓練をしています。今では気持ちよさそうに眠れるほど。ずいぶん大人に(?)なりました。



「バスに乗ってどこにいこうかなあ。」

た。人の声が好きで、褒められるとニヤニヤしてしまいます。見かけたら是非声をかけてください。これからは新しい発見があればいいなと思っています。いろいろな感謝しながら親子で楽しい時間を作っていきたくと思っています。どうぞ、よろしくお願いします。

(母 園田 由佳里)

夏祭り

梅雨の真ただ中、6月24日に例年より少し早目の夏祭りが行われました。通所の利用者さんもお母さま方もボランティアさんも通所スタッフも今日だけは浴衣や鉢巻き姿で気分が入っています。お買いのチケットを手にしたら『駄菓子屋さん』ではクジを引くと、同じ番号の景品をもらえてとても嬉しそう。『うちわと風鈴屋さん』では、活動で力を合わせて絵を描いたり貼ったりした手作りの品が次々に売れていました。特に風鈴は今回初めての登場とあって、好評で後半は行列ができていました。『ひもクジ』では、ひもの先に見えているの景品が付いているか引って張ってみたいとわからない為、1人1人の目の色がいつもと違って、中にはそっと何本も引張っている方もいたり。そばで見ても吸い込まれるほどのワクワクドキドキでした。同じように『射的』でも真剣な表情で狙い撃ち！当たれば太鼓がドンドンと大騒ぎです。『ヨーヨーとアヒルちゃんすくい』では二度も三度もすくいに來てくれる方もいました。可愛いアヒルちゃんを手に「家のお風呂と一緒にはいります」との声は嬉しくて、大声で呼

びこんだ甲斐を実感し、感謝でいっぱいになりました。他にも昔懐かしいプロマイドが当たるコーナーや、暗くて涼しいお化けのトンネルもあり、あちこちからたくさん笑顔と歓声が飛び交っていました。最後には二重三重の輪になってみんなで『ズンドコ節』を踊り、今年も賑やかな夏祭りとなりました。

(通所看護師 佐伯)



「皆でハイ！チーズ！」

リハビリテーション課の活動!!

私は、久山療育園で働き始めて2年目になります。久山療育園では、利用者の方の笑顔や御家族の方々の明るい笑い声でいつも元気を頂きながら、楽しく働かせて頂いています。

今回は、私の職業である作業療法士について紹介したいと思います。作業療法とは、体や心に病氣・怪我・障害などを抱えた方や、今後にそれらが予測される方々に対して、その人らしい生活が送れるように支援していくお仕事です。

作業療法の分野は、身体障害・精神障害・発達障害・老年期障害の4つに分けられています。それぞれの分野で作業療法士は対象者の希望に少しでも寄り添えるように支援していきます。作業療法士と聞くと病院で働いているイメージが強いと思いますが、私たちが作業療法士は病院以外にも入所施設や通所施設、在宅や訪問、保育園や学校への支援など地域に密着した幅広い場所で活躍しています。

久山療育園では、入所されている利用者の方々と始めとし、通所や外来、訪問や施設支援を通じて多くの対象者の生活に関わっています。日々の生活がより送りやすくなるように、利用者の方の姿勢に合った座位保持装置や車椅子を検討し、御家族や業者の方と協議を繰り返しながら作製していきます。他にも身体の変形・拘縮の予防・維持や座保つこと、動作が行いやすい



(リハビリテーション課 作業療法士 長池)

ように体幹器具や靴を検討し、多職種が連携しながら作製していきます。食事では、摂食評価を行いながらその人に合った食形態や水分のトロミの有無、トロミの粘度、スプーンの種類などを一人一人検討し、誤嚥のリスクが少なくなるよう、スタッフで情報交換を行いながら検討していきます。また、自分でスプーンを持つことができず方には、より食べやすいように自助具や介助皿・台を使用をして援助します。

身障・精神・発達・老年期とそれぞれの分野で行うことは異なりますが、「作業をする」とことは全ての分野で共通しています。私たちが「何かをしたい・しよう」と思った時、そこには必ず「作業」という行為が必要となってきました。それは日常生活においても食事・更衣・入浴や様々な場面で見られます。私たちが作業療法士はその場面においてその方の持っている能力を生活や活動へつなげ、参加する為の手助けをしていく職種です。作業を行うことで対象者の心にも元気を与えられるように今後もお手伝いをさせていただきます。

九州地区公益社団法人 重症心身障害福祉協会認定 重症心身障害看護師について

2013年に重症心身障害看護師を専門的に育成する研修が開始されるというお話を頂きました。入職して8年が経過し、後輩に重症心身障害看護師の魅力や、いままで実施してきた看護を伝える機会が増える中で、自分自身が重症心身障害看護師の魅力を理解できていくのか、経験や感覚だけで看護を伝えていけないかなどと考えている時期でした。答えが見つからないまま過ごしていたので、今回の研修で基礎から専門知識をあらためて学びたいと考え、迷うことなく参加をお願いしました。

研修は2013年7月から福岡県や長崎県で計185時間ありました。重症心身障害児者の生命、生活を守るための看護や在宅支援を通して家族への支援などを学び、訪問看護事業所やNICUの実習から重症心身障害児者施設以外の看護を体験することができました。受講後に短期入所に



(めぐみ棟看護主任 藤島)

関する研究論文を提出し、今年5月に県内で初めて、日本重症心身障害福祉協会の九州地区認定重症心身障害看護師の1期生に認定されました。

研修は重症心身障害看護師とは何なのかを考える良い機会となり、今後は利用者様に快適な生活を提示し、生活のなかでより多くの楽しみが見つけれられるように、今回の学びを生かしていきたいです。また今回の研修や自分の体験から、後輩に重症心身障害看護師の魅力、科学的根拠に基づいた看護を伝えられればと考えています。

今回の研修では知識以外にも他の重症心身障害児者施設で働く仲間ができて、情報交換や看護について話し合う場面が多く、良い絆ができました。現在に至っても研修生同士で情報交換を通じて交流が続いています。認定重症心身障害看護師として課題は多いですが、1期生の仲間と乗り越えていきたいと思っています。

現在、2期生、3期生が重症心身障害看護師の認定を目指しています。今後は2期生、3期生とも交流し、重症心身障害看護師の質の向上に努めていきたいです。

最後に今回の研修の関係者の皆様、短期入所に關する研究論文に助言、協力してくださった皆様、研修期間中、支えてくれためぐみ棟のスタッフの皆様、本当にありがとうございました。

